

# 施策評価シート(平成29年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (9)歴史的風致を生かしたまちづくりの推進

(評価担当者)

生活文化部長 佐久間 利夫

## ■基本施策が目指す姿

市民、事業者、行政が一体となり、歴史的な風致を生かしたまちづくりを進めています。

## ■関連する分野別計画

亀山市歴史的風致維持向上計画

## ■成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	H31	H32	H33		
1	東海道沿道における文化財公開施設見学者数	人	54,082	H27	40,499					67,500
2	伝統的建造物群保存地区内の街道に面した建造物の修理修景事業の完了率	%	56.0	H27	56.5					60.0
3										
4										

## ■市民アンケート調査

項目	重要度	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [H32]	市民アンケートの考察
1	文化財や歴史的なまちなみが保存整備されている	重要度 満足度	0.89 0.32		
2		重要度 満足度			
3		重要度 満足度			
4		重要度 満足度			
5		重要度 満足度			

## ■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
<b>B</b> まずまず進んでいる	東海道を基軸とした歴史的風致の維持向上に関しては、課題とされる宿場間の一体感の確保に向けて、市民と行政とが一体となって太岡寺駅周辺の整備が進捗しており、個別判定はBとしている。 閑宿伝統的建造物群保存地区の保護の推進については、計画的・継続的な事業実施が図られており、成果指標についても着実に進捗している。しかし、核的事業である「関の山車」会館の整備において、事業進捗に遅れが生じていることから、個別判定はBとしている。 以上から総合判定をBとした。
<b>反省点・課題</b>	
宿場間の整備については、成果が表れたものの、今後整備を必要とする地点も多いことから、全体的な方針を定め、着実に事業を実施していくことが必要である。また、成果指標における見学者数が減少していることから、既に整備を終えた施設の公開活用をさらに充実する必要があるが、旧佐野家等の公開に遅れが生じている。 伝統的建造物群保存修理修景事業は着実に進捗しているものの、空家の増加等保存地区住民の不安もあることから、空家の解消に向け、積極的な活用策を検討・実施する必要がある。事業進捗に遅れが認められる「関の山車」会館整備事業については、平成31年7月の開館に向けて、市民、行政が一体となって、事業推進を図る必要がある。	

## 今後の展開方針

東海道の整備に関する方針を定めた上で、着実な事業推進を図る。また、「歴史的風致維持向上計画」の改訂に向け準備を進める。整備を終えた歴史的建造物等については、管理手法を整備するとともに、市民活動団体等との連携により活用を進める。伝統的建造物群保存修理修景事業他、空家の活用に関わる他事業との連携により、空家の解消を図る。「関の山車」会館は平成31年7月の開館に向けて、人員の重点的な配置等の取り組みを行う。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向① 東海道を基軸とした歴史的風致の維持向上							
(個別判定)	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】				
B まずまず進んでいる	活動	東海道を中心とした街道の連続性や宿場間の一体感を確保するため、宿場間をつなぐ街道等関連施設として、太岡寺駅周辺の歩道整備を行った。また、地域住民との連携により並木の植樹を行った。 東海道沿道の整備等を終えた歴史文化資産において、文化年事業、ひな祭りなど、市民、地域、市民活動団体などとの連携協働により活用を行った。		評価	東海道において、拠点となる宿場と宿場をつなぐ間の整備が進み、東海道全体の歴史的風致が向上した。 また、市民活動団体等との連携により、公開活用を進めたことで、市民の歴史的風致に関する認識が深まるとともに、来訪者の受け入れ環境の充実につながった。 旧佐野家の外構工事を行ったものの、施設の公開には至っていない。		
		関連事業	番号		事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]
		17036	東海道街道環境整備事業(布気小野線)	主	25,800 / 24,503	B	B
事業以外の取組	内容					活動	成果
	旧佐野家住宅の地域と一体となった公開活用					B	C
	市民団体等との連携による、歴史的建造物等の活用の促進					A	A

施策の方向② 関宿伝統的建造物群保存地区の保護の推進							
(個別判定)	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】				
B まずまず進んでいる	活動	伝統的建造物等の修理修景事業は、計画的・継続的に事業を実施した。修理修景事業の実施と連動して、調査設計・監理業務の発注や、市民活動団体との連携により工事現場公開等を行った。 「関の山車」会館の整備は、工事等の実施に遅延が生じているものの、平成31年7月の開館に向けて整備等を進めた。		評価	伝統的建造物等の修理修景により、伝統的建造物の保存が進むとともに、保存地区の保存に関わる技術者・技能者の育成が進んだ。また、保存地区を活用した様々なイベント等により、市民意識の向上が図られたとともに、来訪者の散策環境の向上につながった。		
		関連事業	番号		事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]
		17037	伝統的建造物群保存修理修景事業	主	31,000 / 30,774	A	A
		17038	「関の山車」会館整備事業	主	123,064 / 61,590	C	C
事業以外の取組	内容					活動	成果